

特定非営利活動法人分析産業人ネット

第 15 期活動報告

平成 30 年度

2018.4～2019.3

ご挨拶

理事長 澤田嗣郎

2004年11月に発足した特定非営利活動分析産業人ネットは、設立以来、自立の道を目指して活動を行い、直近の年度にやっと目途がつくところまで来ました。しかし相変わらず、財務体質はぜい弱です。そこで、今年度は当法人の財務的な責任をもつ代表理事を設けて持続可能な経営を目指した活動を展開しました。今年度の事業活動は人材育成事業と振興普及事業とも業績は昨年なみでしたが、事業の継続発展のための布石となる開発や新規顧客の獲得等の活動で成果を得ました。来年度も引き続き、会員を中心に協賛企業やボランティアの協力を仰ぎ、持続可能な経営という目標達成に向けて活動を推進致します。

平成30年度の活動概要

平成30年度の我が国経済は製造業を中心に史上最高の業績を達成する企業が続出し、海外から日本を訪れる観光客も大幅に増加したものの、GDPの6割強をしめる消費は相変わらず拡大するところまで行きませんでした。当法人が扱う事業が対象とするのは、科学技術、材料開発、品質管理、環境計測等の目的で分析機器を使用する個人のため、経済情勢から直接的に大きな影響は受けませんが、働き方改革や定年制度の改革等の政策の変化による経営への影響については留意しつつ、事業を行いました。

このような外部状況の中で、人材育成事業では、顧客の対象を拡大する広報活動を推進し、振興普及事業では、顧客の拡大に必要な商品やサービスの充実に努力をしました。

人材育成事業では、今までの受験対象となる機器分析の実務者を対象とする広報活動に加えて、資格の知名度を上げるために実務者を雇用する管理者や企業に対する広報を充実するとともに就職する学生に対する広報活動を推進しました。セミナー・講習会事業ではJASIS展での主催セミナーでテーマに「分析サービスの海外展開」を取り上げて、当法人の存在をアピールしました。

振興普及事業においては、ビジネス支援事業でイノベーションの創出を指向した企業からの展示支援、展示代行サービスの受注が増加し、Pittconの展示会初日の日本人参加者向けランチョンセミナーは昨年同様の盛況でした。通信販売事業はリピートオーダーと共に新規の顧客からの受注が増加しました。また、事業の継続可能性を確実にするために海外製品の導入についての調査活動を推進しました。通信販売を利用する簡易機器事業では開発したブレッドボードを利用した光度計の自作キットの販売促進のため動画を制作してYoutubeで公開し、パームトップ光度計の製造が容易に出来るように設計を一新した後継機を開発しました。

社会貢献事業は、日本で機器分析に関するナーチャー賞エッセイコンテストの開催、タイ国の泰日工業大学の学生への奨学金の提供と日本語スピーチコンテストの支援等日本語教育への支援、マレーシア日本国際工学院に対する日本語スピーチコンテストの支援を昨年に引き続き行いました。

今期のトピックス

「おもいをつぐむ」第2集の発行(6月)

日本流のものづくりが出来る人材の教育をめざして2007年に開学したタイ国の首都バンコックのパタナカーンにある泰日工業大学は第2外国語として日本語の履修が必須になっています。学生の日本語学習に対する意欲を高める機会を増やすために2010年から毎年2月に日本語スピーチコンテストが開催されています。このスピーチコンテストで1位から4位までに入賞した2014年から2017年までのスピーチ原稿をあつめた「おもいをつぐむ」第2集を第1集(2010年-2013年)に続き発行しました。

おもいをつぐむ

タイの大学生が日本語でかたる

～第2集～

2014-2017 泰日工業大学スピーチコンテスト作品
集



おもいをつぐむ第2集の表紙

「分析サービスの海外展開」セミナーの開催(9月)

分析機器製造業は生産高の約65%(2017年)が輸出される輸出産業ですが、売上規模では分析機器を使って分析を実施する受託分析サービス事業が上回っています。分析機器は単純に出荷すれば終わりではなく、輸出先でも装置の性能の維持や保守管理、試薬の提供等のサービスや受託分析サービスが不可欠です。このような分析サービスに関する日本企業の取り組みについて米国、欧州、中国、東南アジアでの現状について5名の方に御講演戴きました。

フィラデルフィア(アメリカ)のSHI(Science History Institute)を訪問(3月)

最初に実用化された分析機器とベストセラーとなった機器の収集と展示を行っていたCHF(Chester Heritage Foundation)は2015年12月にCHFと同一の創立者による団体



のThe Life Science Foundationと合併しました。今回の訪問では合併の意図と経緯についての説明を受け、2020年に日本人の創業者等を追加したきk分析の創業者達の第2版の出版にあたり、前回と同様の便宜を図って戴けることの確認をしました。展示場も合併前とは内容が増え、19世紀以前の錬金術の時代の書物等の展示がありました。

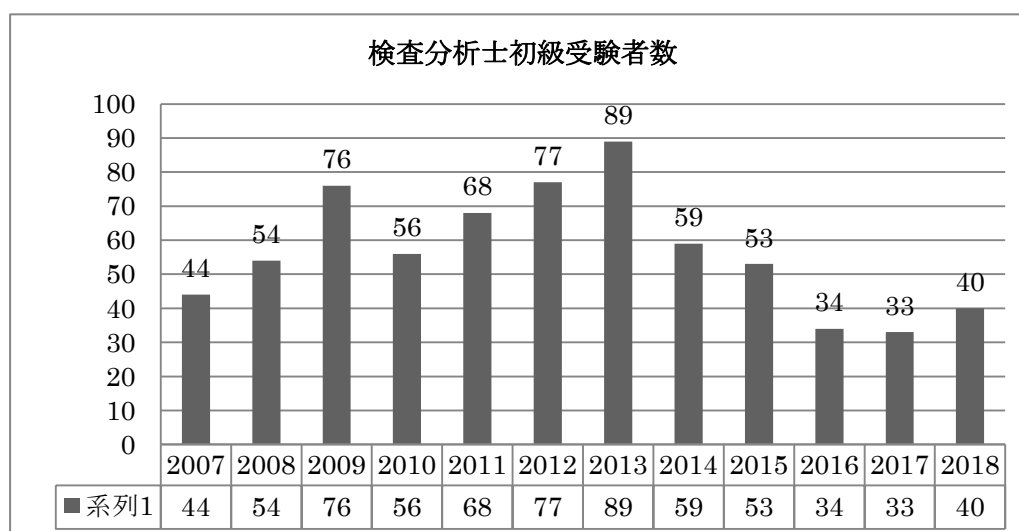
事業報告

I. 人材育成事業

人材育成事業の活動は当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して実施しています。

1. 資格認定事業

検査分析士と検査分析士マーケティングエキスパートの初級と上級の資格認定試験を2018年7月28日（土）の午後、東京、名古屋、大阪、福岡の4都市で同時に行いました。札幌と仙台は受験会場を用意したものの、受験者がいませんでしたが、全体としては昨年より多い40名が受験をし、合格率もアップしました。上級受験者は5名、団体試験の受験者は14名でした。また検査分析マーケティングエキスパートの受験者は残念ながら皆無でした。昨年に引き続き、合格者の継続的な学習を支援する検査分析士会の研修会を今年も、春と秋に東京と大阪で行いました。



2. トリニティースクール事業（講習会・通信教育事業）

トリニティースクールは機器分析の実務者及び機器分析に関する販売関係者の自己啓発機会を提供する講習会と通信講座で構成しています。講習会の受講者は昨年度並みで通信講座の受講者の多くは検査分析士資格試験の支援講座でした。通信講座の受講者増のためには開講からの時間が長い講座の見直し、講習会については最近の状況に即した講座の開設の準備をおこないました。毎年 JASIS 展に合わせて幕張メッセの国際会議場で開催するマーケットトレンドセミナーは「分析サービスの海外展開」をテーマに開催をしました。機器分析の業界は性能向上を目指して機器の開発を行うステージから、分析機器を使って課題を解決する分析サービスが中心となるステージに移行し、世界的な市場での競争になっています。本セミナーではこれらの最新の情報に関して第一線で活躍する5名の方に講演をお願いしました。

II. 振興普及事業

振興普及事業の活動は当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して実施しています。

1. ビジネス支援事業

今年度は、2020年の東京オリンピック開催の影響で毎年4月に開催されるCPhI展（国際医薬品原料・中間体展）は2019年4月開催分が3月になったため、今年度は9月に開催された分析機器の展示会JASIS展と合わせて3回ブース出展を行いました。この3回のブース出展では簡易光度計の実演デモを行い、資格認定事業紹介等を行いました。幕張メッセで行われたJASIS展の展示は今年も東京環境経営研究所と連携しそれぞれ2ブースを使って展示を行いました。またJASIS展のインターナショナルコーナーにあるPittconのブース出展の支援も行いました。ペンシルバニア州フィラデルフィアで3月に開催されたPittconでは今年もブース出展とともにコンファレンスで“T: Analytical chemistry of nanoparticles and nanostructures”のテーマのセミナーを開催しました。日本からの参加者を対象にして展示会初日行う恒例の有料のランチョンセミナーでは今年も20名余の参加者がありました。またブース出展では支援事業としてバイオネット研究所の画像処理ソフトとC&V社の のカタログ展示を行いました。



JASIS2018の2ブースを使った展示

2. ネットバザール事業（通信販売事業）

蛍光X線分析で使用するプラスチックのフィルムを中心にラボ用消耗品の受注が順調に増加し、パームトップ光度計もアナログ吸光光度計が徐々に売上が伸びてきました。採算を取れるところまで、売上が伸びるために、ラボ用消耗品は納期短縮のため在庫をもつことにし、来年度に向けて新規商品の導入について検討を行いました。

3. コンテンツ制作事業(出版及び動画制作)

YouTubeのPAI-NETチャンネルに「光度計キットを組み立てて吸光度をはかろう」「Bread Bord 英語版」の動画をアップしました。2010年に出版した「機器分析の創業者達」の第2版を2020年に出版する予定していますが、Pittcon hall of Fameの受賞者の記事を翻訳することについてフィラデルフィアのSHI(Science History Institute)を訪問して承諾を得ました。

4. 簡易機器事業

今年度は昨年、開発した学習用のアナログ吸光光度計や試作した繰り返し組立可能のブレッドボード型光度計を利用した実習講座を開催しました。光度計に関してはアナログ吸光光度計の在庫が減少したため来年度以降、受注が増加することを見込んで、容易な組立が可能となるように改良設計を行い、試作を行い性能・機能の確認をしました。

Ⅲ. 社会貢献事業

日本では「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって、タイ国では「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて活動を展開しています。

1. 機器分析に関するエッセイコンテスト

エッセイコンテストは毎年、募集を9月に開始、11月中旬に応募を締め切り、12月に選考委員会を開催して受賞者を決めています。第10回となる今年度の応募総数は20件でした。選考の結果、大賞1名と優秀賞3名、ステュディオス賞3名、ファーストペンギン賞1名、ノウィ・ホミネス賞2名、検査分析士会奨励賞を1名の受賞を決定しました。表彰式は、新年交流会の会場で行いました

2. タイの泰日工業大学の日本語スピーチコンテスト

今年も9月に3年生を対象とするコント形式のプレゼンコンテストを、2月に日本語の履修時間が多いビジネスコースの学生を対象としたスピーチ形式のコンテストが行なわれました。2月のスピーチコンテストは、日本語検定でN3以下とN2以上の2つのカテゴリーでコンテストが開催されました。



3. タイの泰日工業大学学生への奨学金 (PAI-NET FUND)

この奨学金は生活支援資金として毎年、泰日工業大学の2年生、3年生、4年生各3名に授与していましたが、今年の2年生から2名となり、計8名の学生に一人3万バーツを支給しました。奨学生の1名減は泰日工業大学からの申し出によるものです。今年度も6月にPAI-NETの奨学金を授与された卒業生と現在授与されている学生をあつめて同窓会を開催しました。

4. タイの泰日工業大学の日本語科への図書寄贈

タイ人の日本語学習のための標準的なテキストがないため、日本語科の先生方は授業の教材をつくる必要があります。先生方のリクエストにより教材作成に参考となる日本語学習の参考書を日本で調達して寄贈しています。

5. マレーシア日本国際工学院 (MJIIT) での日本語スピーチコンテスト

今回で3回目となる日本語スピーチコンテストは2018 マレーシア日本国際工科院日本語・日本文化コンテストの行事の中で行われました。コンテストの対象となるのは日本での滞在期間が6カ月以内のMJIITの大学院生と大学生です。今年のテーマは「日本と私」で、11名がスピーチをしました。

IV. 法人の運営状況

平成 30 年度の活動組織

当法人の事業活動は正会員 50 余名によるボランティアを中心に実施していますが、これを支援する組織として事務局とは別に事業推進センターを設置しています。

1. 組織

当法人の運営は昨年と同様に理事会で経営方針、経営計画等を審議しますが、各事業の具体的な活動方針は理事と正会員に外部の委員も加えた人材育成委員会、資格推進委員会、教材企画委員会、社会貢献検討委員会において審議を行い、また当法人の活動全体の推進に関してマーケティング会議、パブリケーション会議で検討を行っています。具体的な実務は、理事会等で決められた方針、計画に基づいて事務局長を中心に事業推進センターの常勤者と正会員、検査分析士会会員のボランティアにより活動を行いました。事務局と会員では対応できない一部の講習会・セミナーの講師等については必要に応じて外部に業務委託をしています。尚、今年度は理事の改選はありませんでしたが法人の今後の活動には財務的な基盤の確立が望まれるので、財務的な活動を推進するために代表理事職をもうけて今まで理事長が行っていた財務に関する業務を引き継ぎました。

2. 財務

当法人の活動は会員からの会費収入と、当法人が行う事業の収入により持続出来ることを目標にしていますが、現在は収入が不足するために会員の寄付により補充をしています。

3. 投資

今年度の投資は検査分析士資格試験の受講者増のために、昨年に引き続き配布用カタログボックスの購入、検査分析士団体受験ガイド等のガイド類の作成、ネットバザール事業ではラボ用消耗品の在庫の確保、簡易機器事業では光度計シリーズの基本となる光度計は今後の円滑な供給を可能とするために量産をし易いように再設計を行い機材の調達をおこなないました。

4. 広報

当法人の広報は WEB をベースとした広報活動と会報を中心とする紙媒体の広報活動を組み合わせておこなっています。紙ベースの広報は分析産業人ネットの会員向けに会報誌「NURTURE」と、検査分析士会会員向けの会報誌「SHUHARI」を季刊で発行しています。また会報誌は会員以外にも当法人と関わりがある学識経験者や経営者、技術者等を含め約 200 部を配布しています。また、事業活動を円滑に進めるために、事業別の E-mail によるレターを不定期で発行しています。外部向けにはビジネス支援事業の推進のために Pittcon2019 ガイドを発行しビジネスを行っている会員とマーケティングエキスパート向けにレター誌を試しに発行しました。外部向けの広報は月 4 回約 1500 名に E-mail 配信で NEWS を発行しセミナー・講習会の告知、資格試験の案内等を行う他、Facebook、Twitter You-tube の painet-Channell で動画による広報を行っています。

特定非営利活動法人分析産業人ネット

英文名 Professionals' Net Work in Advanced Instrumentation Society

設立 2004年11月24日

事務所所在地 〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2-6 淡路ビル4F

電話 03-5294-3115 FAX 03-5294-3344 E-mail info@pai-net.or.jp